

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2009 Summer

7月20日発行

No23

私たちの賛助会費が活かされています

奨学生レポートVol.3

夢を追いかける人たちを応援したい!



4月から医師として大阪医科大学附属病院に勤務する、元奨学生の高丸優子さん

“障がい者に働く機会と太陽を”

自立運動の先駆『太陽の家』

インタビュー

中村 太郎氏 社会福祉法人太陽の家 理事長

平成21年度

障がい者福祉助成金 各地で贈呈式を行いました

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

メール便配達を始めたことで、
次のステップが見えてきた

YWF TOPICS

■ すべてのことには意味がある

2年前に医学部を卒業し国家試験に合格。初期臨床研修を経て、この春からリハビリテーション医としての一步を踏み出した高丸さんも、学生時代に奨学金制度を利用した一人です。

生まれつき足に障がいがあり、元々『お医者さん』は高丸さんにとって身近で憧れを抱く

高丸 優子さん

大阪医科大学附属病院リハビリテーション科 医師

《私ならではの》の診療を！

職業でした。その漠然とした思いが改めて意識されるようになったのは中学2年のときです。「少年の主張大会」の作文に、自分のことを書いてみないかと

先生に勧められたのです。それまで普通学級で生活し、障がいについてあまり意識することはありませんでしたが、友だちや先生、家族など多くの人たちに



両下肢弛緩性麻痺（先天性）。大阪市立大学医学部を卒業し、4月から高槻市内の病院で、リハビリテーション医として勤務。自身で装具を利用しながら、日々、子どもからお年寄りまで、さまざまな疾患の影響でリハビリテーションを必要とする患者の診療に当たっている。

私たちの賛助会費が活かされています

夢を追いかける人たちを 応援したい！

支えられてきたことを振り返り、『障がいを持って生まれてきたことにも意味はあるはず。他の困っている人たちを励ましていけるような人に成長したい。医師になりたい』と書きました。

■ 一番、身近な

ドクターでありたい

ただ、どの診療科の医師になるかについてはいろいろな迷いがありました。医学部でその存在を知った『リハビリテーション医』と、以前から関心のあった『精神科医』の、二つの道が最後まで残ります。

しかし、精神科は私じゃなくてもやってくださる方がいる。リハビリテーション科は、障がいを持った私だからこそできることがあるのでは？（私ならでは）が——。この思いが決め手となりました。

初期臨床研修中のことです。数カ月だけリハビリテーション



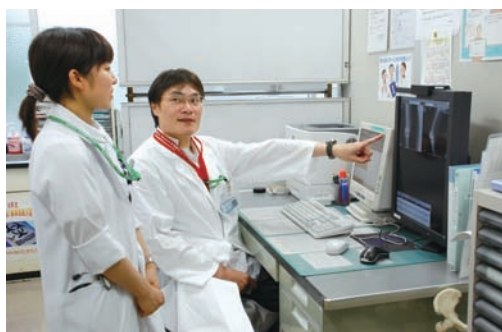
「良くなりましたよ」と、診察室で

をお手伝いした患者さんから高丸さんに伝言がありました。「今日、退院なので顔を見せてください」

何うと、こんなによくなりましたとお礼をいただき、「先生もがんばってね」と。

高丸さんは「歩く姿を見れば、私に障がいがあることは患者さんにも分かります。だから逆に応援されることが多いんです（笑）。でも、それで患者さんが張り合いを持ってくれれば、うれしい」と言います。

患者さんの身近で（私ならではの）を見つけて診療に役立てること。それが高丸さんの目指すドクターです。



リハビリテーション科の村尾浩講師（右）と打ち合わせ

私たちは奨学生のみなさんが
社会で活躍することを心待ちにしています。

奨学生レポート

Vol.3

障がい者奨学金制度
当財団では、障がいのある大学生（短大除く）に奨学金による助成（年間60万円／返済不要）を行っています。夢に向かって努力する34名の方々が、現在この制度を利用しています。

治療法を見つけた

小学校高学年から車イスが欠かせなくなった森さんが、自分の病名を知ったのは中学2年のことでした。



論文を英語で読む演習の授業。
写真奥が大西純一教授

ご両親はそれまで病名を隠していました。車の助手席に座った森さんが障がい者手帳を見つけたのは、筋ジストロフィーは、筋肉の細胞が次第に衰え、筋力が低下していく難病で、根治する治療法は未だ研究の段階です。

幾重ものハードルを越えて

「病名を知ってから背骨に銅が入ったようにピシッとして」と母・千恵子さん。その様子を感じ取り「夢を叶えるなら、その分野の先端を目指さない！」と中学・高校の先生方も

叱咤激励して応援しました。

難病治療に有望視される遺伝子レベルの学問をするなら「分子生物学」と目標を定め、埼玉大学理学部一本に絞って猛勉強。現役受験の1カ月前には心停止状態で入院したこともあり結果は残念なものになりましたが、初心を貫き二浪して、実力で門をくぐりました。

彼の周囲には自然と手助けをしてくれる仲間も集まりました。



クラスメイトとエレベーター前で

た。教室間の移動やノートテイク、実験……。大学側の配慮も行き届いており、心身ともにキャンパスライフの大きな支えになったといえます。

「僕は症状の重い方でほとんど体が動きませんが、頭脳は健康な人と何ら変わりません。学科の友人や先輩たちのような気持ちを持った人が近くにいれば、難病の人にも楽しい生活ができます」と共に学び、励ましてくれた友人に感謝しています。

森さんの今の夢はさまざま。難病の治療法開発。期待が持てる再生医療の研究に関係を持ちながら、この1年は卒業研究の傍ら、じっくり医学系大学院へ進む準備に充てる予定です。

難病と生きる人々のために 生命科学の未知なる世界へ

森林太郎さん

埼玉大学理学部分子生物学科4年



筋ジストロフィー症により四肢機能障害（1種1級）。難病治療につながる遺伝子レベルの研究がしたいと、分子生物学の最先端の大学に努力の上合格。現在は専門的な実験も友人らボランティアグループのサポートを受けながらこなす。その模範的な姿に、昨年は大学の学長表彰を受賞。

※ES細胞：Embryonic Stem cell（胚性幹細胞）。受精卵の初期段階である胚からつくられる特別な細胞。血液や筋肉、神経など、全身のあらゆる細胞に分化・増殖する能力があるため万能細胞とも呼ばれ、再生医療への応用が注目されている。

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 3

飾り巻き寿司

真空包装機で作業効率が大幅に向上

社会福祉法人みなと福祉会
しおかぜ作業所 — 愛知県名古屋市



見事なオードブルに華やかさを添える飾り巻き寿司



みんなで手際よくオードブルを盛り付ける。



出来上がった真空パック。仲谷順司さんと竹野富美子さんは、飾り巻き寿司をつくるのが好きだ。



社会福祉法人みなと福祉会
しおかぜ作業所
定員40人(就労継続支援B型10人生活介護30人)
名古屋港区正保町8-134
電話052-384-8567



助成金で導入された真空包装機の前で。
「目標300食も何とか達成したいです。」と所長の杉浦さん(写真左)。今回の応募責任者の岡本さん(写真右)は、将来通販商品として事業化することを考えている。

本年度の障がい者福祉助成金でいち早く真空包装機を導入した『しおかぜ作業所』。ここでは、断面が美しい飾り巻き寿司で未来を見つけようとしています。

好景気から一転、未曾有の不況に見舞われている愛知県名古屋市。港区にある『しおかぜ作業所』は、高齢者向け配食サービス

ようと考えました。

を長年手がけてきました。昨年、就労継続支援B型に移行したのを契機に厨房を改装し、1食680円の昼食300食の調理が可能に。しかし、この不況下、さらに低価格の一般業者が参入し230食で伸び悩んでいます。当初1万円だった利用者の平均工賃は、現在平均1万5千円。5万円を目指したい作業所主任の岡本靖史さんは、調理師の強みを生かして飾り巻き寿司の商品を狙っています。花模様のほかに縁起の良い多彩な絵柄が作れる飾り巻き寿司は、お祝いの席にぴったり。丁寧に巻いて包丁で切る仕事は、利用者さんの自信にもつながります。しかし、当日作っているとはとても時間間に合いません。そこで、真空包装と急速冷凍を組み合わせて新鮮なまま保存することで解決し

取材当日は、パーティの仕出しオードブル40人前を受注していました。昼食調理の片付けと翌日の仕込みが終わった午後2時すぎから調理開始。ミートボールやから揚げ、サンドイッチと盛り付けられた中に飾り巻き寿司も加わって見事に豪華なおードブルが出来上がりました。真空包装機導入後はじめてオードブルに加わった飾り巻き寿司。確かな商品力としてお客様に訴求しています。

みなと福祉会専務理事で所長の杉浦さんは、「昼食の食数も更に伸ばしたいが、飾り巻き寿司のような競争力をもった商品も生かしたい。真空包装機で可能になった飾り巻き寿司の商品化で今夜のお客様の反応が楽しみです。」と言っています。岡本さんもクール宅急便で全国にお届けできるようにすることが夢。食材の保存や鮮度維持に真空包装機は大活躍しそうです。

平成21年度

障がい者福祉助成金 各地で贈呈式を行いました

障がい者の自立と社会参加、生産性アップに直結する事業をはじめ、施設の改善、整備、出版、研修、文化事業に、90件6,188万円の助成が決定し各地で贈呈式を行いました。賛助会員のご協力や労働組合のカンパ活動を通して、みなさんのあたたかい気持ちで障がい者の支援につながっています。



関東支社



口コミで広がった「わがまんま弁当」 器を広げると仕事も増える

こだま
NPO法人古太萬の会 佐久間さんち（埼玉県本庄市）
施設長 中嶋恭子さん

『佐久間さんち』がお弁当事業をはじめたのは平成19年5月。有機野菜や地元のお米など材料にこだわり、お母さんが作ってくれるようなおいしいお弁当づくりをめざしました。1個からお届けする1食500円の『わがまんま弁当』です。1日5食のスタートが口コミで広がり、2年後の今では90～100食に注文が増えてきました。注文が増えるにつれて、配膳室にお弁当が並びきれなくなり、メンバー同士がぶつかりながらのお弁当づくり……。助成金を申請したのは、手狭になった配膳室を拡げるための費用です。

「器が広がると仕事もそれにあわせて増えてくるものですね。以前建物を直したときもつかの間、人も増えて仕事も増えてきました」と施設長の中嶋さん。配膳室が大きくなってさらにお弁当の売上げが期待できる『佐久間さんち』です。

各地で報道されました

業務用ミシンで作業楽に

ヤマト福祉財団 障害者施設に贈る 中標津

【中標津】町内で障害者通所施設を運営するNPO法人森の家（鈴木政治郎理事長）に、ヤマト福祉財団（東京）から業務用ミシン二台（四十万円相当）が贈られた。

森の家には現在、十五人が通い、肩や腰用の温湿布を製造している。町役場で十日に行われた贈呈式で、同財団の加藤房男事務長は「新しいミシンで湿布を作り、地域に喜ばれ



る施設に」と話した。鈴木理事長は「以前の何倍もの作業が期待できる」と感謝していた。本年度、道内から同財団への申請は四十九件あり、うち森の家を含む四件に助成する。（山本倫子）

北海道支社

東京支社

北信越支社

北海道新聞

2009年5月21日

北海道支部の贈呈式は、北海道新聞（5月16日旭川版）、釧路新聞（5月16日）、函館新聞（5月19日）にも掲載されました。

障害者を支援 2施設に助成金

ヤマト福祉財団

心身に障害がある人たちの自立と社会参加を支援しているヤマト福祉財団（有富慶三理事長）は二十九日、共同作業所など県内二施設に助成金合計百二十五万円を贈った。

同財団は一九九三年の設立以来、毎年全国の障害者支援団体に助成金を贈っている。今年九十件、六千八百十八万円を助成。本県からは、鯉ヶ沢町のやすらぎ共同作業所と板柳町の就労継続支援センターあいゆう工房が対象に選ばれた。

この日は同財団の母体の一つ、ヤマト運輸の小川範行・青森主管支店長らが両施設を訪れ助成金を贈呈。この

の障害者支援団体に助成金を贈っている。今年九十件、六千八百十八万円を助成。本県からは、鯉ヶ沢町のやすらぎ共同作業所と板柳町の就労継続支援センターあいゆう工房が対象に選ばれた。

この日は同財団の母体の一つ、ヤマト運輸の小川範行・青森主管支店長らが両施設を訪れ助成金を贈呈。この

小川主管支店長から目録を受ける樋口所長（左）鯉ヶ沢



東奥日報 2009年5月30日

東北支部の贈呈式は、福島民友（5月29日）、河北新報（6月1日）にも掲載されました。

東北支社

中部支社





九州支社



沖縄ヤマト運輸



あいつは特定非営利活動法人幸せの魔法つがが運営する地域活動支援センター。旧与那城・勝連を中心に身体・知的・精神の障害がある25人の利用者がオリジナルのTシャツやストラップ、木片を使ってエイサーを表した額などの作品作りを励んでいる。施設は与那城町立第一保育

施設改善に助成 不便から解放

ヤマト財団が100万円

「うるま」念願のトイレと手洗い場ができる。保育所跡を活用している地域活動支援センター「あいつが」の成人利用者が、朗報が飛び込んできた。ヤマト福祉財団（有富慶二理事長）が施設改善費として100万円の助成を決め、沖縄ヤマト運輸の鹿島利明社長が13日、同施設を訪れ、東浜光雄施設長に手渡した。1力所しかないトイレ、幼児用の手洗い場を使っていただけに、利用者らは「腰をかがめないで済む」と感謝した。

うるまの障害支援団体に

所跡。保育所は少子化による定員の適正化を図るため統合、空いた建物を地域に還元しようと、市が2005年からあいつがに無償で貸し出している。

手洗い場は高さが約50センチ。大人は腰をかがめないと使えない。トイレは子供用の便器を外し、大人でも使えるサイズにしたが、一つしかないため行列ができる。財政上の問題で改修工事を行うことができなかった。今年、同財団の助成事業に応募し選ばれた。助成金はトイレと手洗い場の改善と玄関のスロープ工事費に充てられる。

東浜施設長は「生活訓練のためにも、施設の改善は必要だった。利用者の人権を守ることもできる」と感謝した。利用者の仲宗根哲也さんは

東浜光雄施設長に助成金を贈る沖縄ヤマト運輸の鹿島利明社長（右）とうるま市庁舎・あいつが

沖縄タイムズ 2009年5月15日



中国支社

「手洗いに腰をかがめて痛か。明さんは「トイレが一つだった。洗いやすくなると仕事め時間制限があり不便。改善がはかどる」と笑顔。東仲村正 されどうれしと喜んだ。

社会参加へ淀江 作業所に助成金

ヤマト福祉財団

NPO法人淀江作業所（米子市淀江町淀江、吹野理恵子理事長）は二十日、財団法人ヤマト福祉財団から障害者福祉助成金の贈呈を受けた。同作業所ではおでん器具を



海藤主管支店長（左）から助成金の贈呈を受ける大田所長

購入し、七月ごろから販売に取り組む。

同財団は障害者の自立と社会参加を支援しており、今年は全国から千六百件の応募が寄せられた中から九十件に計六千八百八十八万円の助成を決定。同作業所はおでん器具の購入資金として五十八万円の助成を受けた。

同作業所で行われた贈呈式では、ヤマト運輸の海藤和之津山主管支店長が「おでん器具が大変活躍すること期待している」と、大田百子所長に助成金を贈呈。利用者を代表して、谷尾秀実さん（右）が「喜びとともに感謝の気持ちでいっぱい。自立のために使わせていただきます」と述べた。

このほか、同作業所郷土芸能部のメンバーが、淀江さんご節の銭太鼓を披露した。

日本海新聞 2009年5月24日

中国支部の贈呈式は、山陰中央新報(5月26日)にも掲載されました。



関西支社

ヤマト福祉財団 東かがわ市の 施設に助成金

100万円贈る

ヤマト福祉財団（有富慶二理事長）は十五日、東かがわ市のNPO法人東香川



目録を手渡す岡田支社長（右）と東かがわ市土居東香川障害者自立支援センター

障害者自立支援センター（渡辺達実代表）に助成金百万円を贈った。同財団は社会貢献活動の一環として、一九九三年度から毎年、障害者施設など

に助成を実施。本年度は全国で九十団体・個人に計約六千二百万円を贈る。贈呈式は、同市土居の就労継続支援B型施設「東香川障害者自立支援センター」で行い、ヤマト運輸の岡田真一四国支社長が渡辺代表に目録を手渡した。渡辺代表は「作業場の改修に役立てたい」と話していた。

四国新聞 2009年5月16日

四国支部の贈呈式は、徳島新聞(5月22日)高知新聞(5月26日)、にも掲載されました。



四国支社

平成21年度 障がい者福祉助成金決定一覧

■施設の整備・改善、備品の購入 ▼5,625万円 単位(万円)

地 域	団 体 名	決定額
北海道	旭川市 障がい者就労継続支援事業所ゆいまーる	65
	標津郡 森の家	40
	函館市 カフェ・セラビア	28
	札幌市 ひかり工房	100
青森県	北津軽郡 就労継続支援センターあいゆう工房	70
	西津軽郡 やすらぎ共同作業所	55
岩手県	久慈市 知的障害者福祉工場福祉工場みずぎ	100
宮城県	仙台市 みんなの広場	40
秋田県	横手市 太陽の園	100
山形県	東田川郡 はんどめいど糸蔵楽	100
福島県	郡山市 デイセンターにんじん倶楽部	100
	耶麻郡 就労継続支援B型さぎそうの家	75
茨城県	ひたちなか市 共同作業所ふれあい	100
	牛久市 すぺーす結	100
栃木県	那須塩原市 那須塩原市つくし共同作業所	76
	那須塩原市 ケアステーション natu-la	100
群馬県	高崎市 えほんの森	74
埼玉県	秩父市 作業所ケルン	34
	上尾市 デイケア施設グローブ	100
	本庄市 佐久間さんち	100
千葉県	船橋市 地域活動支援センターとまりぎ	65
	南房総市 富浦作業所	100
	我孫子市 地域活動支援センターイエローハート	60
	茂原市 カレンズ	55
神奈川県	川崎市 アシスト・ワーク神木	100
	三浦市 作業所トントン	35
	座間市 ウィンディーザマ	90
山梨県	韮崎市 地域活動支援センタードリーム工房韮崎	100
東京都	西東京市 第一さくらの園	50
	八王子市 八王子第二いちよう福祉作業所	45
	中野区 カサデオリーバ	90
	町田市 ポワ・アルモニー	16
新潟県	新潟市 地域活動支援センター和工房	15
	岩船郡 関川村地域活動支援センターさくら工房	60
富山県	魚津市 わかくさ作業所	90
石川県	加賀市 貫蛙作業所	100
	鹿島市 知的障害者複合施設「つばさ」(アドース)	100
長野県	須坂市 ワークスペース夢工房	77
	長野市 多機能型事業所エコーンファミリー	100
岐阜県	多治見市 優が丘	58
静岡県	掛川市 ひまわり共同作業所	30
愛知県	田原市 地域活動支援センターやまぶきハウス	80
	名古屋市 しおかぜ作業所	59
	豊田市 スモールワン地域生活支援事業所	75
三重県	度会市 玉城町立夢工房たまき	12
	伊勢市 ステップワン	29
滋賀県	守山市 ポブリン	100
京都府	中京区 工房ソルト	35
	与謝郡 知的障害者通所授産施設「つむぎ」	100
	上京区 上京ワークハウス	100
大阪府	住吉区 地域活動支援センター墨江作業所	30
	堺市 ゆめ工房	70
	富田林市 拓共同作業所	100
	住吉区 コロたま倶楽部	14
奈良県	山辺郡 夢工房どうで	100
	吉野郡 知的障害者支援事業所あけみどり	32

■施設の整備・改善、備品の購入 単位(万円)

地 域	団 体 名	決定額
兵庫県	豊岡市 障害者多機能施設はばたけ	60
	姫路市 地域活動支援センター「出愛いの里」	40
和歌山県	海草郡 ひかり作業所	38
	田辺市 龍の里作業所	45
島根県	米子市 淀江作業所	58
	出雲市 障害者自立支援事業所ぼんぼん船	85
岡山県	玉野市 玉野地域活動支援センター手穂の里虹	100
広島県	廿日市市 あいあい作業所	76
山口県	下関市 下関市中心障害者福祉作業所	20
	山口市 ワークステーション大蔵	93
徳島県	徳島市 徳島市障害者福祉作業所あおぞら	100
	徳島市 障害者支援センターきのこハウス	30
香川県	東かがわ市 東香川障害者自立支援センター	100
高知県	南国市 社会福祉法人きてみい	20
	土佐市 つくし作業所	100
福岡県	福岡市 共同作業所「はな」	50
	大牟田市 多機能型事業所エンゼル	100
佐賀県	鳥栖市 NPOわかば	53
長崎県	佐世保市 地域活動支援センター茶屋の原	23
熊本県	熊本市 トライハウス	60
大分県	津久見市 ちちんぶいぶいあけぼの	60
宮崎県	南那珂郡 ひなたぼっこ	85
鹿児島県	いちき串木野市 自立支援センターつくしの会	100
沖縄県	うるま市 地域活動支援センターあいとびあ	100
	糸満市 就労継続支援B型事業所たまん	100

■各種講演会、研修事業 ▼195万円

地 域	団 体 名	決定額
東京都	港区 NPO 法人東京高次脳機能障害協議会	50
大阪府	箕面市 人工呼吸器を付けた子の親の会バクバクの会	35
	中央区 社団法人大阪聴力障害者協会	60
長崎県	長崎市 長崎県精神障害者家族連合会	50

■各種出版、啓発事業 ▼158万円

地 域	団 体 名	決定額
神奈川県	新宿区 社会福祉法人桜雲会	58
	新宿区 財団法人全日本ろうあ連盟	100

■各種調査、研究、文化、スポーツ事業 ▼210万円

地 域	団 体 名	決定額
東京都	北区 NPO 法人ことばの道案内	50
埼玉県	北足立郡 埼玉県精神障がい者フットサル大会実行委員会	60
愛知県	日進市 NPO 法人全国福祉理美容師養成協会	100

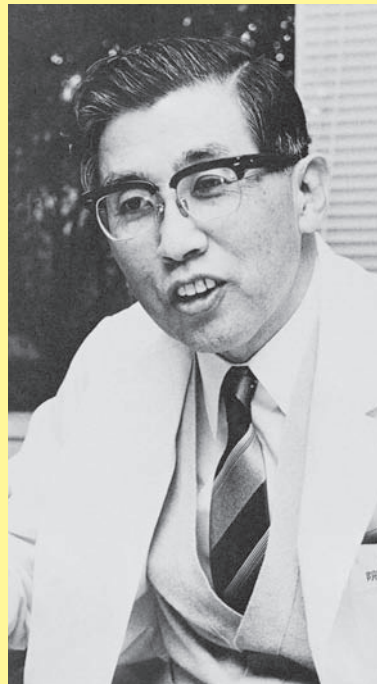
■詳細は財団ホームページをご覧ください
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

「障がい者に働く機会と太陽を」

自立運動の先駆『太陽の家』



『太陽の家』全景



創設者の故中村 裕博士

「保護より機会を！」を理念に、半世紀近くにわたってわが国の障がい者自立支援をリードしてきた『社会福祉法人太陽の家』（本部大分県別府市）。そのコミュニティの一角に、今年の秋「スワンカフェ&ベーカリー太陽の家店（仮称）」がオープンする予定です。開店に先立って『太陽の家』を訪問し、障がいのある人たちがいきいきと働く工場内などを見学させていただき、中村太郎理事長からも貴重な話をうかがいました。

社会復帰果たしてこそ「回復」

まず、故中村 裕博士と『太陽の家』創設前後の話から。

中村 裕（ゆたか）。1927年別府市に生まれる。51年九州大

医学専門部卒、整形外科医。57年医学博士。わが国リハビリテーション医学の先駆者。障がい者スポーツのパイオニア。前大分中村病院長。84年57歳で病没。中村は60年、リハビリテーション研究のため欧米へ。そして

イギリスで後の中村の人生を決づけるロードヴィッチ・グットマンと出会う。

当時、日本では、脊髄損傷などで下半身マヒ状態になると、再起不能者として諦められていた。向こうでは、医療とは患者

が完全に社会復帰するまで面倒をみることに。グットマン指導の治療では、85%が社会復帰を果たしている。これに中村は深い感銘を受ける。

と云ってグットマンの行っていることは特別なことではない。それは、スポーツを中心においた残存機能回復と強化訓練だ。高度な外科手術を予想していた中村にとっては大きなショックだった。

グットマンはユダヤ人。医師としてドイツで働いていたが、ナチによるユダヤ人排斥運動の高まりの中、家族を連れてイギリスに亡命。その後イギリスは、第二次大戦でドイツへの侵攻作戦を計画、その際、多くの戦傷者が出ることを予想して脊髄損傷特別センターを設ける。その開設をグットマンは託される。そこでグットマンは戦場から送られてくる重傷者の社会復帰訓練に成果をあげ、世界的名声を得る。

手術よりスポーツ

中村がなによりもグットマンから学んだのは、スポーツを医療に取り入れている点。

手足のマヒした患者でも卓球場に連れて行ってラケットを握らす。フラフラしている人をプールに投げ込む。自分の筋肉を

使って自ら這い上がっていくという能動的治療。

帰国後、中村が大分県身障者体育協会の設立を皮切りに、第1回国際身障者競技大会（63年）、東京パラリンピック（64年）の各日本選手団団長就任など、障がい者スポーツの振興に輝かしいリーダーシップを発揮するのも、グットマンの教えとイギリス時代の体験による。

64年、中村は社会福祉法人別府整肢園長に就任。同園は肢体不自由児の福祉施設だが18歳になると出なければならぬ。が、その後の行く先がない。家では厄介者扱い。中村はこれらの人たちの将来を模索する。

『太陽の家』創設構想の芽生えである。

当初は「善意工場」なるものを考えた。人が廃棄した衣類や家具などを集めて作りかえ、販



売する。これは身障者の技術養成工場にもなる。が、やがてこの工場づくりを断念する。集めた廃棄物の多くがとて再製でできる代物ではなかったからだ。何か良い仕事はないか。周りの協力も得て仕事探し。

地場産業の竹細工、義肢づく



りを始める。

65年10月『太陽の家』オープン。が、この頃すでに中村はB型肝炎にかかっていた。

『太陽の家』という名称の考案者は作家の水上勉。水上の障がいを持つ次女が中村の手術を受けた縁で両者には親交があった。が、水上には本来、障がい者に対する深い理解と見識があった。彼の自伝的作品『ものの声ひとの声』（小学館）に知的障がい児を扱った感動的な一編がある。

手仕事からコンベア方式へ

水上は『太陽の家』創設時の理事でもあるが、資金集めでも積極的に協力した。中村の死後、水上は「中村裕先生の思い出」という文章の中でこう書いている。

「先生は東京へ来ては安宿に

泊まって資金繰りに廻っておられた。厚生省当時、自転車協会、寄付金をくれそうところをくまなく先生と連れだつて廻った」

水上の紹介で評論家の秋山ちえ子も熱心な協力者になる。

竹細工から始まった『太陽の家』だが、収入は中村の期待するレベルとほど遠い。また66年から5年の間に社会復帰した障がい者は51人だったが、平均月収は2万5000円。これで復帰したとはいえない。中村は決意する。

「障がい者の社会復帰よりも、『太陽の家』自身の授産場を高賃金の工場とし、従来の手仕事をやめ、コンベア方式の近代産業を誘致しよう」と。

誘致第一号はオムロン（立石電機）。ついでソニー、本田技研など。それらの企業を相手にそれぞれ共同出資会社をつくって仕

事を進めた。共同出資会社という経営方式に中村の深い読みを感じさせる。

むろん、それらの前にはいろんな仕事の入れ替えがあった。そのたびに様々な摩擦が生じたが、中村は信念を持って乗り切った。

中村は1984年7月23日、障がい者の自立支援のために燃焼しつくしてこの世を去った。57歳だった。

共同出資会社は8社に

『太陽の家』は、その後も創業者の遺志を引き継ぎ発展をとげてきた。現在の概況は次のとおり。

○理事長 中村太郎氏（中村裕氏の長男・大分中村病院院長）

○施設概要 Ⅱ入所授産施設3

カ所（定員計285人）・通所授産施設1カ所（60人）。その他身障者福祉工場、自立センタートレーニングセンター、相談支援センター、スーパーマーケットなど10カ所。

○授産業務 Ⅱ制御機器、自動車などの電装部品の組立、コンピュータソフト開発、ATM自動機、パソコンなどの修理、その他印刷製本、園芸など。

○共同出資会社 Ⅱオムロン太陽（株）・オムロン京都太陽（株）・ソニー太陽（株）・デンソー太陽（株）・富士通工フサス太陽（株）・ホンダ太陽（株）・ホンダアルアン（株）・ホンダ太陽（株）・三菱商事太陽（株）など8社。

○入所・通所者数 Ⅱ約1600人

り、障がい者に働く場を提供されました。非常にユニークな事例だと思います。

理事長 イギリスに留学したとき、向こうの障がい者は社会復帰し、ふつうの社会人として生活しているのを父は見ていた。

障がい者でも会社に通め、給料を貰う、ということが大きいんです。ただ、父も最初は、回収

「障がいのないものを目標にしない」

中村太郎理事長に聞く

——中村裕博士はどんなお父上でしたか。

中村理事長 私が子どもの頃、父は国立別府病院の整形外科部

長を勤めていました。小学校二三年生くらいまでは、日曜日など一緒に遊んでくれるやさしい父でしたが、『太陽の家』ができからにわかに多忙になり、い

つもいらいらしている感じだった。というのも『太陽の家』が発足当時、なかなかうまくいかない。それに父の身分は国家公務員。国家公務員が『太陽の家』

の理事長を兼務するのは如何なものか、なんて新聞などにも出て、結局、父は国立病院を辞めた。が、生活があるので大分市内に病院を設立し、病院と『太陽の家』の両方の経営に当たらねばならなくなった。忙しかったわけです。

——お父上は早くから大企業と組んで共同出資会社をつく



半世紀の歴史を語る資料館

した廃品を再生して売ったり、やぐらごたつを組んだりといった零細な家内工業的仕事をしていたんですが、現実問題として長続きしなかった。発注が滞ってしまったり景気の波に左右されたりして四苦八苦だった。

——障がい者福祉の現状についてどんな感想をお持ちですか。

理事長 小泉改革以降、社会保障費削減の波が出てきて、どんどんきびしくなっているなど言う実感はある。最近では、緊急経済対策のおかげでひと息ついて

いるが、障がい者の高齢化と重度化の影響から就労支援の厳しい状況に変わりなく、今後も努力が必要だ。水上先生が仰った「太陽の家は永遠の事業である」の意味が少しわかってきたように思う。

——障がい者行政をどうご覧になっていますか。

理事長 『太陽の家』草創期の頃は、うちがやったことがあとになって法律になるということが幾つかあった。たとえば社会福祉法人が株を持つことを認められたのは2年前。『太陽の家』は40年も前から企業と共同出資して障がい者雇用を進めてきた。最近の『太陽の家』はおとなしくなった。いかに行政の指導に従うか、情報を得ていかに早くそれに乗るか、といったぐあい。もともと本来どうあるべきかを考えて行動しなければと思うが、日本全体がそんなふうなんです。飛び出すことがむずかしい。

——自立支援法の影響は如何ですか。

理事長 施行当初は、自己負担分に耐えられなくて退所していたり、食費が出なくなったので施設の食事をやめてカップヌードルにしたりといった話はき

くが、最近とはくに目立ったことはない。ただ、今後の課題は大きい。今、この寮に300人の障がい者が住んでいる。重度の人が多く、授産という形態で訓練している人が大部分です。政府方針ではあと3年以内に寮をなくすという。寮から地域へ、です。障がいが重いから問題があると思うが、とにかく3年以内に住むところを確保しなければならぬ。が、寮を出てこの辺の地域でアパートなどの家賃を払ってやっていける人は3分の1程度と思う。3分の2は自立生活は困難だと思う。生活保護を選ぶしかないかもしれない。理想と現実には大きなギャップがあると言わざるを得ないと思う。



スーパーもバス停もある『太陽の家』。スワンカフェ&ベーカリー太陽の家店（仮称）がここにオープン予定

『付記』中村理事長は、このほどホームページの中でこれからの『太陽の家』の運営理念を次のように述べています。（要旨）
時代の変革期の中で新しい

『太陽の家』の姿を提示していきたい。第一は、「障がいのないものを目標にしない」こと。重度の障がいがあってもありのままに受け入れられ、人間としての尊厳が保たれる社会の実現を『太陽の家』がリードしたい。第二は、「成長、拡大」とは異なった価値の創造。「共生」「調和」「信頼」「環境」「優しさ」「誠実」「温かさ」「安心」など、本来、日本人が大切にしてきたことに価値をおく組織にしたい。第三は「地域密着」。地元「大分」の人々に愛され信頼される組織になりたい。

□聞き手・文 高田三省

◎参考文献Ⅱ「中村裕伝」（中村裕伝刊行委員会）・「博士の遺言」（大分合同新聞社）・「中村裕先生を偲ぶ」（太陽の家）



自立支援法について「今後の課題は大きい」と語る
中村太郎理事長



メイトさんを経験後、契約社員として生き生きと働く田口誠さん。「ここに来ると、仲間意識を感じられてうれしいです。周りの人に、ほんと助けてもらっています」前向きに一生懸命働く彼は、社員の誰からも好感を持たれる存在でした。



構内で仕分け作業をするオリーブの会のメイトさん。周りのスタッフとも楽しそうに挨拶を交わしています。

大阪市の南側に位置する平野区の、平野宮町センター。下町といった気さくな風情が漂うこの街で、メール便配達に取り組むのは、精神に障がいのある人を支援する「オリーブの会」に所属する7人。仕事日は配達量や本人の体調などによってローテーションが組まれており、この日の朝、作業に従事していたのは3人のメイトさんでした。

「オリーブの会」がメール便配達事業を開始したのは、2007年

きびしい季節を
乗り越えたことで、
自信に。

事場で社員と接するのは日常の光景。すでにその場に溶け込んでいる様子の3人は、元気に彼らと挨拶を交わします。社員もみんな、同僚としての彼らに自然に声をかけていきます。そんななかなかの雰囲気の中で、仕事ができきと進んでいくのです。

この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

メール便配達を始めたことで、 次のステップが見えてきた。

大阪市平野区の平野宮町センターで、メール便配達に取り組む「地域活動支援センターオリーブ(通称オリーブの会)」。一度は参入できなかった経験を持つこの会ですが、2007年7月からメール便配達事業を開始。今ではこの仕事を通して、ヤマト運輸の契約社員になる人や、夢に挑戦したいと話する人が出ています。



●平野長原支店

面積8,23㎡／人口95,615人／世帯数40,961世帯

●特定非営利活動法人 精神保健福祉を考える市民の会ひらの 地域活動支援センター オリーブ

2007年7月メール便配達開始 利用登録者数 約60名
クロネコメール便配達その他、マンションや公共機関の清掃業務、パン製造販売、リサイクルショップの運営、地域広報誌の配達業務など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 押尾

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

e-mail y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp

の7月。実は会が最初にエントリーしたのは、その2年前でした。当時は参入できるエリアが見つからず、やむなく断念。しかし、担当者の強い熱意で再度エントリーを試みたところ、この地区でのメール便配達に参入できることになったのです。

「始めたのが、運悪く梅雨の頃だったんです。長雨とその後の猛暑で苦労しました。外の仕事にも慣れていなかったので体力的な負担も大きく、辛くてやめたいという声もでたんです」

こう話すのは、あきらめずにエントリーにトライした就労支援員の村松さん。「でも、続けていくうちにいつのまにか体力がついて、慣れていったようです。仕事の能力が上がると、自信もつき楽しくなった。お給料をもらえたこ



オリーブの会のメイトさんたち(左から) 柏木功さん「世間話をされたり、子供が話してきたりして、うれしい」 幸田雅文さん「自信がついた。この仕事に出会えてよかった」 足達勝紀さん「月3,000冊を配達できるようになった。続けたい」 小西清一さん「開放的な気分になって楽しい。家族の会話が増えた」 兵藤孝幸さん「体力がついたことがうれしい。責任感が生まれた」 石川明広さん「仕事がリハビリに。将来は夢だった武道家になりたい」 古川茂樹さん「平野区のことがかって面白い。満足しています」 オリーブの会就労支援員 村松昭典さん「始めたときと比べると、みんなホントに成長しました。スタッフも驚いています」

とで、モチベーションが高まったことも大きかったと思います」

最初のうちはミスもありましたが、一度やっただミスは2度と繰り返さないようにミーティングを重ねました。仕事には責任を求められることを、メール便配達を通してみんなが気づいていったといいます。

そして、一番辛い時期を乗り越えた後は、配達数もメンバーもどんどん増加。スタート月3,000冊程だった配達数は、3ヶ月後には倍の7,000冊を超えていました。現在では、メイトさんの数によっても変わりますが、多いときには10,000冊を超える月もあるそうです。

「一番大変な時期から始めたおかげか、体力だけでなく忍耐力、精神力も鍛えられたようです」(村松さん)

仕事をして、 本来の自分が戻ってきた。

オリーブの会では、メール便配達を通して契約社員になった方が3人もいます。その一人が田口さん。メール便開始時の一番大変だったときを経験したメンバーです。

「働いていて、仕事の辛い感覚がぜんぜんないんです」と笑う田口さん。「仕事をするのが楽しい。作業が自分の力で上手く流れたとき、とても充実感があります」

田口さんは現在、契約社員として仕分けなどの仕事に就いています。実は村松さんによると、メール便の仕事を始めた当初は、あまり働く気が感じられなかったといいます。しかし今では生き生きと仕事をこなし、職場からの評価もとても高いものでした。ヤマト運輸の坂野支店長も彼の仕事ぶりに驚いている一人。「彼はセンター内にある荷物を見渡しただけで、その日に必要なコンテンツの数や作業量を私に的確に教えてくれるんです。ほんと優秀。彼と出会えたことがうれしいです」

田口さんは「周りの人たちから力強く支えてもらって、前向きになりました。長い間自信をなくしていましたが、本来の自分が戻ってきたと感じます。できるならいつかヤマト運輸の社員になりたい」と話します。将来の夢は？という問いに、田口さんは「ほんのちょっと考えて「平凡な生活を送ること」と答えてくれました」。



「ミートショップいよ」さんでは、店頭でメール便を手渡し。いつもお店の方が気さくに声をかけてくれます。「うちはヤマトが大好きなんですよ」と笑って話してくれました。

ひとつでも多くの施設が、 参入できるように。

オリーブの会がメール便配達を始めたときに、彼らの力となったのは当時の生野平野メール便エリアの藤本靖スパーバイザー。2度目のチャレンジで実現した彼らのメール便配達を成功させるため、施設職員と一緒に頑張ってさまざまなサポートをしたといいます。

緒方メール便営業課長は、エリア探しの難しさをあげながらも、これからは障がい者のためのメール便配達を増やしていきたいといいます。「ひとつのグループに委託するので、担当に穴空きがなく安定した労働力となっていくんです。それと、一生懸命に働いている姿が、他のメイトさんの見本になっているんですよ」彼らは、ヤマト運輸にとっても、大切なパートナーとなっていると話します。

現在彼らと一緒に仕事をしている西浦センター長も、彼らのレベルの高さに感心したといいます。「地域の人の反応も好意的で、応援してくれています」と、彼の仕事ぶりを評価します。

「始めたときはここまでできると思っていなかった」と開始当時を振り返って話すオリーブの会の村松さん。「でも、チャレンジする機会さえあれば、こんなにできるんです。そのことを、多くの方に知って欲しい」と、最後に力を込めて伝えてくれました。

メール便配達を通して成長する彼らの姿は、彼らを一番知る人たちの想像をも大きく超えるものだったのです。



(右から)・西浦雅也センター長・緒方秀一郎メール便営業課長・坂野克彦支店長・石田久雄関西支部事務長



「聞いて聞かせて
—ブラインド・ロービジョン・ネット—
NHKラジオ第2
日曜 19:30-20:00

聞いて
聞かせて

—ブラインド・ロービジョン・ネット— NHKラジオ キヤスターに なった芳賀優子さん

芳賀 優子さん 1962年生まれ 22年間ヤマト運輸（株）に勤務の後、2009年4月からNHKでキャスター。その間、（財）共用品推進機構などで弱視生活者の視点から表現・発言活動続ける。宅急便の不在連絡票にある視覚障がい者向けの切り込み「ネコの耳」は、芳賀さんの提案。著書に「弱視OL奮戦記」（都市文化社）「弱視の人に会おう本」（小学館）「ゆうことかりんのバリアフリー・コミュニケーション」（小学館）



収録前の打ち合わせ。原稿は、拡大コピーされている。
写真右がディレクターの迫田朋子さん。

ヤマト運輸に22年間勤務した芳賀優子さん（財団ニュースNo.1-3連載）が、この4月からNHKラジオ第2放送のキャスターに転身。視覚障がい・弱視の人におけた情報を発信する芳賀さん取材しました。

東京都渋谷区にあるNHK放送センターの405スタジオ。

この日5月24日放送分の収録を行うために13時きっかりに入った芳賀さんは、ディレクターとてきぱき原稿打ち合わせを進めると、すぐに収録がはじまりました。番組テーマ曲が流れ、やがてディレクターから「キューー！」の合図。芳賀さんは原稿に顔を押し当てるようにして読み始めました。

「見えない人も見えにくい人も。視覚障がい者みんなのラジオ。」

キャスターの芳賀優子です。..」

今日のゲストは盲養護老人ホーム千石荘相談員の新阜義弘（におかよしひろ）さん。視覚障がい者の養護老人ホームについてトークが展開。トークの最中にもディレクターから芳賀さんのイヤホンに指示が出ます。「入るのはだれが決めるのかって聞いて！」。ディレクターの指示に芳賀さんは、「この入所の条件なんですけど、この人を入所させるといことはどんな方法で決

めるのでしょうか。」

呼吸びったりで話題が深く掘り下げられていきます。

収録が終わった芳賀さんにキャスターの仕事にかける思いを聞きました。

「視覚障がい者のためのラジオではあるけれど、晴眼者となぐラジオでもあるので、ゲストは、晴眼者も含めた視覚障がい者のための仕事をしている方をお迎えしたいと思います。やって思ったことは、下調べがとても

重要な仕事だということでした。何もしないで、いきなりゲストとお話すると、きつと大変なことになりますよ。母にも意見をもらうようにしています。アハハ。」

担当チーフディレクター迫田朋子さんに、芳賀さんについて聞きました。

「この番組はベテランアナウンサーが担当する歴史のある番組でしたが、当事者にキャスターをという思いがありました。キ

ャスターは幅広い関心と問題意識がないと難しいですが、視覚障がい者の文化から制度まで幅広く知識のある人はなかなかいません。もちろん、声や話し方も大事です。去年8月にコメントーターとして出演いただいたときに、この人しかいないとすぐにお願ひしました。自分の障がいの枠を超えられない人が多いい中、弱視だけれども点字もできる、聴覚障がいの人にも気配りがあり、晴眼者にも友人が多いということも重要なことでした。そして、この4月から当事者のキャスターの番組としてスタートしたわけです。」

制作サイドの信頼も厚く、ラジオキャスターという新しい仕事に挑戦する芳賀さん。視覚障がい者へ貢献できる充実感を明るい笑顔が物語っています。

障がい者施設・事業所のみなさんへ 「グループ就労総合保険」の ご案内

この度、ヤマト福祉財団は(株)損害保険ジャパンと
協力し、「グループ就労総合保険」
(請負業者賠償責任・傷害総
合保険)を開発しました。

この保険制度は、施
設外就労等に際し、業
務中に第三者の身体・
財物に損害を与えた
場合の賠償事故や、
業務中もしくは施設
と就労先の往復途中
で本人自身がけがを
した場合の障害事故に
対して、保険金をお支払
いする制度です(例えば、ク
ロネコメール便配達のセン
ターでの仕分け業務や工場での出張作
業等)。

賠償保険の保険料は1事故1千万円として1施設年
間3万円、障害保険は1名あたり年間3,580円(準記名

式)です。今後、参加施設が増えれば保険料も安くなる
予定です。施設外での就労を行う際にはぜひご検討く
ださい。

なお、本保険制度に関するお問い合わせ、お申し込
みは下記までご連絡ください。

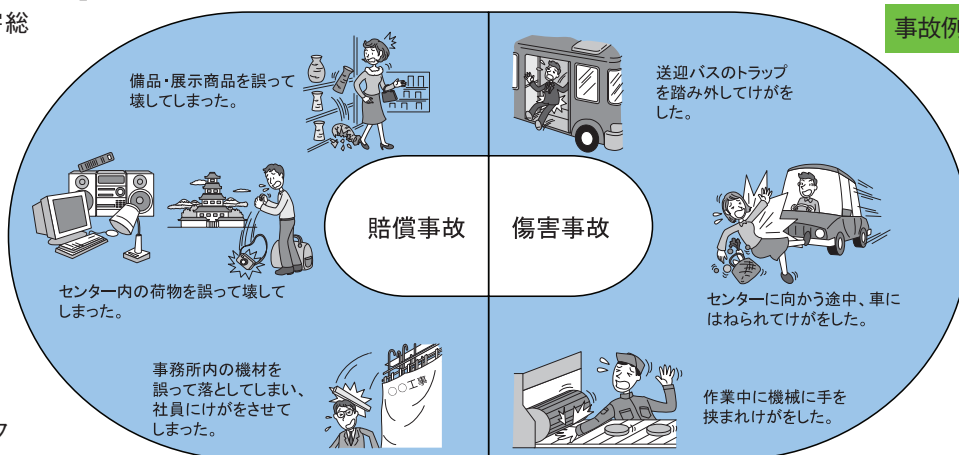
お申し込み・お問い合わせ▼

ヤマトオートワークス(株)

あんしんインシュアランスカンパニー

☎ 0120-953-892 FAX03-5840-7329

事故例



元奨学生 曲藝さん プロデビューへ

聴覚障害2級の曲藝さんは、15歳のときに上海から
来日。日本語も習得しながら多摩美術大学・同大学院
を優秀な成績で卒業した努力家です。この4月よりプ
ロ写真家として活動を開始。企画を出版社に持ち込む
日々が続いています。すでにファッション誌の企画を
実現。大きくはばたくときが来ています。



曲藝さんの写真集「KISS ME HARD」より「Fantastic4」



曲藝 Qu Yi

1985年上海生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。
主な受賞歴に2007年エブソンカラーイメージングコンテスト プロスペ
クト賞など。2008年MoCA上海現代美術館にて「Shanghai MoCA
Envisage II-Butterfly Dream」出展。2009年MoCA上海現代美術館にて
「Merging Emerging - Art,Utopia and Virtual Reality」に出展。「RICOH
Editors' Choice 雑誌がえらぶ、今最も期待する若手写真家展」出展

チュニジア世界遺産 古代カルタゴとローマ展

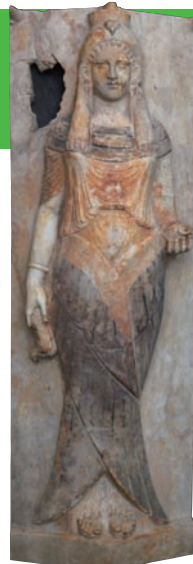
きらめく地中海文明の至宝



コイン
(前264～前241年)



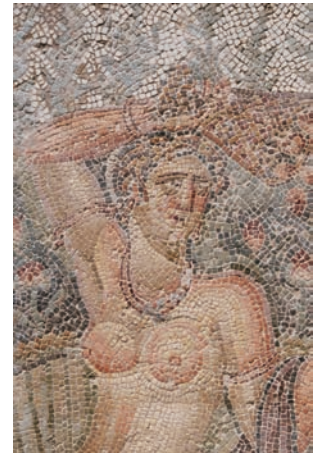
鏡 (前3～前2世紀)



有翼女性神官の石棺 (蓋)
(前3世紀)



ヴィーナス像頭部 (2～3世紀)



バラのつぼみを撒く
女性 (5世紀前半)

©INP photo: Salah Jabeur

開催期間 ▶ 2009年6月12日(金)～8月16日(日)

休館日 ▶ 毎週月曜日(祝日の7月20日除く、7月21(火)が休館)

開催場所 ▶ 仙台市博物館

● 仙台市営バス/JR仙台駅西口バスプール⑨より710～720系統(718は除く)のバス(青葉台・成田山・宮教大・動物公園循環・交通公園川内(営)行)で約10分。または⑨-3より「るーぶる仙台」で約20分、博物館・国際センター前下車、徒歩3分

開館時間 ▶ 午前9時～午後4時45分(入館は閉館の30分前まで)

観覧料 ▶

	一般	高・大学生	小・中学生
当日	1,200円	800円	500円

○身体障害者手帳をお持ちの方および介護人1名様は観覧料が半額となります。

問い合わせ先 ▶

■「古代カルタゴとローマ展」

仙台展実行委員会(河北新報社事業部)

TEL: 022-211-1332 (月～金 9:30～17:30)

URL: <http://www.kahoku.co.jp>

■仙台市博物館

TEL: 022-225-3074

URL: <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum>

主催 ▶ 「古代カルタゴとローマ展」仙台展実行委員会(仙台市博物館、河北新報社、NHK仙台放送局)

協力 ▶ チュニジア共和国文化・遺産保存省、チュニジア国立遺跡研究所(INP)、チュニジア国立博物館群、カタル航空

巡回情報(予定) ▶

金 沢	石川県立美術館	2009年8月29日(土)～9月20日(日)
東 京	大丸ミュージアム・東京	2009年10月3日(土)～10月25日(日)
岡 山	岡山市デジタルミュージアム	2009年10月31日(土)～12月20日(日)
京 都	京都文化博物館	2010年2月11日(木・祝)～4月4日(日)
浜 松	浜松市美術館	2010年4月17日(土)～5月30日(日)
宮 崎	宮崎県総合博物館	2010年7月16日(金)～9月12日(日)
名古屋	松坂屋美術館	2010年10月23日(土)～11月21日(日)

■古代世界の名品が日本初の規模で
本展では、古代の地中海世界を概観し、名将ハンニバルの名とともに知られる、ポエニ戦争によるカルタゴ滅亡までの軌跡を辿るとともに、その後ローマの要衝都市として再生したカルタゴの芸術文化にふれます。見どころは、カルタゴの謎をひも解く多彩な作品群と、ローマ時代に優美に花開いたモザイクのダイナミックな展示です。洗練されたモザイクはまさに「石の絵画」。地中海の島々を描いた5m四方の超大型モザイクは世界初公開です。古代カルタゴとローマ展の美術品取り扱い扱いにヤマトロジステイクス株式会社が協力しています。

■華やかなる文明のゆりかご・地中海
都市国家を築き神々と栄えた古代ギリシア。高度な建築を生み出し巨大な版図を描いた古代ローマ帝国…。地中海はつねにすぐれた文明の母なる源でした。
そしてシチリアの西南に位置し、地中海貿易の拠点としてローマ帝国と肩をならべる栄華を誇ったのが、紀元前9世紀ごろに建国された「地中海の女王」カルタゴです。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

支 部	事 務 長	連 絡 先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL.022-374-8065
東京支部	山元誠司	TEL.03-5564-3705
関東支部	塚本良輔	TEL.045-508-6106
北信越支部	青木浩昭	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	内山 修	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3310
沖縄支部	古謝盛裕	TEL.098-840-3605

賛助会員個人51,609人 法人ヤマトグループ45社(2009年3月31日現在)

本誌の無断転載・転用を禁じます。©(財)ヤマト福祉財団



東京支部
山元誠司新事務長が就任しました。
よろしくお願いいたします。